

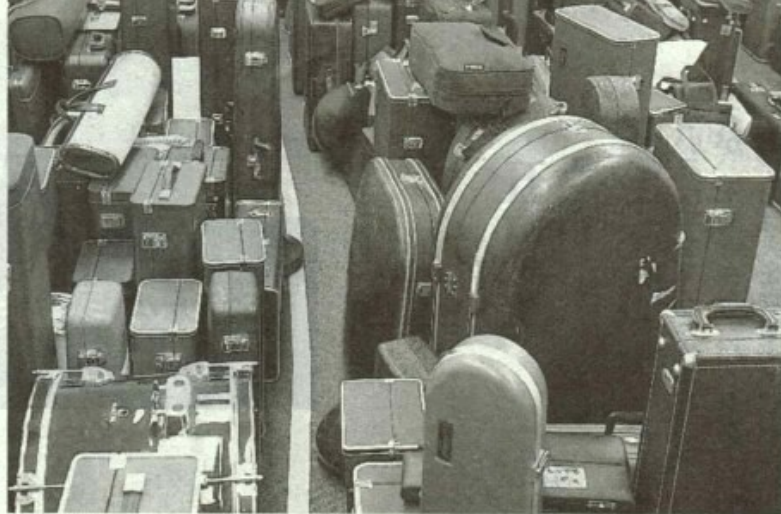
# 楽器と願い乗せ 津波被災地へ

榎 一彦さん（二宮）

ヤーン。大型トラクタが音を立てて旋回と、運転手が声を上

「希望の轍」のイントロだ。《夢を乗せて走る車道》

東日本大震災から4カ月後の2011年7月11日。



被災地に贈るために集まった楽器。中には新品もあった＝FMヨコハマ提供

この日に放送されたFMヨコハマの番組「THE BREZZE」では、トラックが川崎市内の倉庫を出発する様子が紹介された。

現場で出発を見送った二宮町の榎一彦さん(58)は歌詞と重なる情景にこみあげてくるものがあった。

トラックに積まれていたのは、被災地の子どもたちに贈るために集められた大量の楽器だった。

当時、大手運送会社の横浜市内の店舗に営業職として勤めていた。

震災から3カ月ほど経ったころ、取引先のFMヨコハマからこんな依頼が舞い込んだ。

「被災地に楽器を贈るキャンペーンに協力してもらえないでしょうか」

当時、多くの同僚が救援物資の輸送などの応援に入り、職場は人手不足だった

## 震災4カ月 集まった438台



FMヨコハマの「楽器を贈ろうキャンペーン」に携わった榎一彦さん(右)と加藤直裕さん(左)横浜市西区

が、直属の上司から「迷っている場合じゃない。被災地のためにやるしかないだろう」と背中を押された。

企画を立案したのは「THE BREZZE」のプロデューサーをしていた加藤直裕さん(57)たち。加藤さんは震災前、2年ほど営業職だったことがあり、榎さんとも面識があった。

大学まで吹奏楽部でトロンプーンを吹いていた加藤

### ★希望の轍

桑田佳祐さんが監督を務めた映画「稲村ジェーン」の挿入歌。1990年リリースのアルバム「稲村ジェーン」などに収録。地元の要望を受け、2014年からJR茅ヶ崎駅のホームの発車メロディーにも採用されている。

さん。津波で楽器が流された吹奏楽部員のニュースを見て心を痛めていた。

吹奏楽の楽器を集めて被災地に届ける「楽器を贈ろうキャンペーン」を始めたところ、県内約20カ所の受付場所に連日、楽器が届けられた。

榎さんも時間が許す限り楽器を直接受け取り、毎日ミニバンを運転して一時保管場所まで楽器を運んだ。

集まったのは、トランペットやクラリネット、譜面台など。一つひとつにメッセージを添えてもらった。中には傷一つない新品もあった。

榎さんの作業は深夜まで続くこともあった。でも「持参した人たちの思いに応えたかった」。

想定を大きく上回る楽器が集まり、438台が被災地に贈られることになった。会議室いっぱいになっ

た楽器を見て、榎さんも胸がいっぱいになった。

楽器は7月11日に仙台市内の高校に届けられた。

「こんなに集まったんですか」。窓口となってくれた音楽部の顧問教師の、楽器を見たときの明るい笑顔を榎さんは忘れられない。

届いたばかりの楽器も使って生徒たちが演奏をする曲を、搬入作業をしながら聴いた。

楽器は宮城県吹奏楽連盟を通じ、被災地の中学校や高校などに渡ったという。

あれから12年。榎さんは運送会社を辞め、旅行の企画・運営会社を営む。いまでも3月11日が近づくと、あのときのことを思い出す。

今月、朝日新聞の取材で十数年ぶりに加藤さんと再会し、当時の放送を改めて

聞き直し番組のられたメける。

「亡くしてくれたの思い出の思い出う、役立しいです

「フルアンサンくつになをもちんな幸せとを心よ

とき、いす。東北早く日常ています

トラック望の轍」2人の目

あの日ラックはも乗せてた。

いま、こにあるは思いを大切に使いいな、